



杉江 太郎 新連載

皆様初めまして。児童相談所に勤務しながら立命館大学大学院を修了し、今もなお児童相談所にいる杉江太郎と申します。子どもの福祉を守るという指命、メディアからの圧力、様々な責任の擦り付けに耐えつつ、『余地』をテーマに楽しく生きています。対人援助学マガジンに執筆するという『余地』を大切に長く続けたいと思います。よろしくお願ひします。

迫 共 新連載

はじめまして、迫 共(さこ ともや)と申します。大阪の保育園の園長をへて、静岡の大学で保育者養成の教員をしています。対人援助学マガジンの執筆陣には何人か知っている方のお名前があり、自分も機会があればと思っていました。このたび書き手として参加ができてとてもうれしく思っています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

これまで保育と社会福祉の関連科目を教えてきました。その中で教材研究として、漫画を使った授業の紹介をさせていただきたいと考えています。

ただいま勤務校では2年生が保育実習に行っており、実習巡回にまわっています。静岡は車社会なので、けっこうな距離を車で行き来します。浜松といえばウナギ。養殖で有名な浜中湖の対岸、湖西市にも行きました。東海道の宿場、白須賀宿から潮見坂という

名所があり、新居の関所も通りがかったので見物しました。歴史的なものが多く残っており、観光しながらの実習指導になりました。(実習訪問もちゃんとしています。実習園から「どんな指導をしてるんだ!」と怒られることもしばしば…。)

朴 希沙(Kisa Paku) 第二回

私は、とくにかく人と一緒に活動することが好きです。なかでも好きなことのひとつは、読書会です。一人ではなかなか読めない難しい本も、人と一緒だと熱が上がりつつグングン読めます。内容についても(出来る時は)ビシバシ討論します。もともと地域で友人たちと2つ読書会をしていたのですが、最近はその間に職場の読書会まで加わって、なんと1ヶ月に4つも読書会をしています。だから、ひっきりなしに本を読んでいます。並行して本を読むと、時々混乱することもあるのですが、内容が不思議とリンクしたり新しい視点で見れたりといいいところもあります。今日も今から読書会です。私の本業は、もしかしたら読書会に参加する人、なのかもしれせん…。

三浦 恵子

7度目の3. 11が巡ってくる。今なお多くの方々が苦しい状況に身を置いておられる。私の配偶者の本家も跡形もなく津波に飲まれてしまった。

必要なのは息の長い支援だと折々に実感する。私自身も微力ではあるがいくつかの支援に関わらせていただいている。

世界的に有名なヴァイツェッカー大統領ドイツ終戦40周年記念演説「荒れ野の40年」の日本語訳では、ドイツ語の「erinnern」に「心に刻む」という訳語が当てられている。(『新版 荒れ野の40年 ヴァイツェッカー大統領ドイツ終戦40周年記念演説』リヒャルト・フォン・ヴァイツェッカー 永井清彦 訳・解説 岩波ブックレット 52ページ)

東日本大震災以降も数々の自然災害等が続いている。渦中にある方の苦しみに思いを致し、「心に刻む」ことこそが支援の在り方を考え、風化をも防ぐ1つの手立てになると思う。(この時期に毎年発行される岩波ブックレットのタイトルも「3. 11を心に刻んで」である。)

寺田 弘志

このところ、オリンピックや東京マラソンで明るいニュースが続きましたが、父が逝き、あわただしい日々でした。32号の投稿をお休みしますと申し上げたのに、締め切りを過ぎて投稿し、団先生はじめ、編集委員の皆様にはご迷惑をおかけして、済みませんでした。

飯田奈美子

今年の冬は寒さが一段と厳しかったですね。私の住んでいるマンションには温泉がついています(ちょっとした旅館程度の大きさです)。娘も大きくなってきたし(3歳)今年の冬からマンションの温泉と一緒に入るようになりました。娘は大きなお風呂に大興奮し、毎日温泉に行くようになりました。しかし、娘が温泉に行く一番の理由は、温泉に入っているおばさんたちとおしゃべりすることなのです。いろいろなおばさんたちが娘の相手をしてくださるので、娘は「おばさん大好き!」と喜んでいてます。娘を介して、マンションの人と交流をもてるようになりました。娘に感謝です。

山口洋典

本文にも記したとおり、一年間のデンマーク生活が終わりを迎えています。この1年、多くの人、場所、実践、理論と出会いました。滞在を機に始めさせていただいた連載は、次回5回目から新展開を迎えることとなります。また多くの場面で皆さんと共に知見を深めさせていただくことができたと願っています。(写真、「PBLのはしごモデル」のさらなる活用法を探るリサーチミーティングでの一場面)

関谷 啓子

年末に四条に出た。最近夜の繁華街に出かけることも減多になくなり久しぶりであった。デパートの前の開けた場所で青年が歌っている。寒風の中でも彼は凍えてなんかいなかった。信号が変わるまで、、、と立止まった。そしていくつかの歌ができた。

立ち止まり 耳傾ける人も無し 師走の四条河原町暮れる
信号の変わるまでと耳傾けるストリートシンガーの
激しきギターに
正面をひたと見据えて唄い出す リズム取る足少し震えて
爪痕で擦れたギターとスニーカー 恐るるものなき眼(まなこ)動かす
木枯らしの吹きだまりと化す交差点 背を丸め聴く青年の歌
足元のギターケースは硬貨のみ 我の混じりて今夜はいかほど
信号が変わり人波動き出す 紛れて歩く耳置いたま

黒田 長宏

12月半ばに、スマートスピーカーの半額セールがあって、集中して5台も購入してしまった。若干だがボーナスが出て強気だったのもあるが、3千円と6千円の違いは大きい。その後セールはないようなのでタイミングが良かった。というか、その頃やたらメディアからスマートスピーカーの話題が連続して、企業が宣伝を頼んでいたのかも知れないなと思っている。(宣伝効果に乗ったのは、カップヌードル以来である。テレビをみていたら食べたくなくなってしまい買いにいった。)それからまだ数か月ではあるが、半額セールはしてないようだ。休日に縁側で本を読みながらスマートスピーカーにクラシック音楽をかけさせたらなんとも贅沢な気持ちができる。朝はラジコと連動のラジオを聴いて出勤する。夕食時にセレクトされたその日のニュースを聴いている。口頭で頼めば手のかからないラジオのような感じもするし、「京都タワーは何メートル？」と聞くと「131メートルです」と答えたりする。だが、「対人援助って何？」と聞くと「すみません。お役に立てそうにありません」と答えた。



鶴野祐介

今回シリアの子守唄を紹介しましたが、先日「希望のかなた」というフィンランド映画を観ました。フィンランドのヘルシンキにやって来たシリア人難民の作品です。重いテーマではありますが、彼が勤めることになったレストランで、和食を出せば儲かるだろうとネタの上にワサビをたっぷり載せた寿司を出すところなど、笑える場面もふんだんにあり、おススメです。

臼井 正樹

今回は、二～三年の間、考え続けてきた介護福祉に関することの中心的な部分を書かせていただいた。まだ分かりにくい部分があるかもしれないが、私なりに考えた介護福祉の意義である。これが正しいといえるかどうかは、まだわからないが、少なくともこうした論考の積み上げが必要な分野であり、それが求められている時期でもある。皆さんからご意見をいただき、さらにブラッシュアップできれば幸いである。

山下桂永子

年明け、たぶん10数年ぶりにインフルエンザにかかりました。Aでした。体調で二日以上仕事を休むのが初めてぐらい、丈夫な人間だったので自分でも驚きましたが、それ以上に驚いたのは、1週間ひきこもってエアコンをかけつづけたせいか、一人暮らしで電気代が1カ月で1万円を超えたことでした。じっとしても生きるってお金がかかるんだなあと思いました。

今回の原稿は、後半が町家合宿とは少し話がそれました。最初は書くつもりはなかったのですが、でも本当はずっと書きたかったことでした。と言ってもやはり思いつくままに書いているので、伝わるかどうかはわかりません。読んでいただければ幸いです。

尾上明代

ごく最近、あるクライアントさんが急に亡くなった。継続クローズドグループの参加者だった。結果的に最後となったセッションでは、その方の現在の人生をドラマ化し、何をどう乗り越えたら良いかを探索した。良い気づきと決心が生まれ、他のメンバーたちにも深い印象を与えた。ドラマの終わりに「神様」への

感謝と、他者に捕われない「自分自身の人生」をしっかりと歩いて行くことを宣言して下さった。未来の希望もお聞きした。信じられない。ついこの前のことだ…。

悲しい知らせを聞いたグループメンバーたちは、泣き崩れたり茫然自失になったりと、当然の反応とは言え、大きな衝撃が広がった。鬱や身体的症状に発展する可能性もあるため、すぐに私はドラマでお別れ会することを決めた。当然、目的は二つ、その方の魂を慰めることと、スタッフやメンバーのショックとグリーフのケアである。私は、(親しい人の死と独りで向き合うのではなく)仲間たちがいるこの場で、ショックと悲しみをともに分かち合えて、ともに乗り越えられることは幸運だと思い、それを皆に伝えた。

ちょうど前回のドラマセラピーのときに撮ってあったその方の写真がとても良かったので、それを引き延ばしてテーブルに置き、その前で、その方との思い出のシーンを数々演じて捧げた。このグループは、すでに20回くらいのセッションを重ねているので、演技はリラックスしてできるようになっている。ショックや悲しみに取り込まれているように見えた多くのメンバーも、演技をすることで、少しだけ距離がとれ、表現することに集中できていた。ユーモラスな場面もいくつか出て、思わず笑いも何度か出た。その後、一人ずつお花を手向け、その方に伝えたいことを声に出して写真に話しかけた。その後もいくつかのワークを経て、悲しみは変わらずとも、皆は静かな落ち着きを取り戻し、その死に対してポジティブな意味づけができたように思った。

世間のお葬式やお別れの会で、故人との思い出のシーンを皆で演じて捧げる、というのはあまり聞いたことがない。きっと、そのクライアントさんも喜んで下さっていると思っている。また、突然逝かれて残されてしまった私たちにとっても意義深かった。私自身もこのように送られたいと思った。もちろん、一人一人が別れの感情をどう受けとめていけるかが大事なので、送る方法はいろいろあって良い。

この出来事は起きたばかりなので、もう少し時間をかけて、グリーフのプロセスを自他ともに考察する必要があると思う。

小池英梨子

先月の2月22日は「ねこの日」と言われ、全国で色んなイベントが行われていた。動物愛護団体企画のチャリティーイベントもあれば、商業企画もある。「ねこの日」が猫を搾取する日ではなく、猫に感謝する日として浸透したらいいなあと思った。我が家では、「猫感謝デー」としてお造り用マグロを購入。生刻み、炙り刻み、さらにかつお節とチュールをトッピングして家の猫さまたちに感謝を示しました(´▽`)

三野宏治

人に会うたび、少なくない頻度で「体調は大丈夫ですか」とか「具合悪いですか」等といわれる。自覚は特にない。講義が終わった後など学生にもいわれる。90分も話していれば、そりゃ疲れる。しかし、施設訪問や現場のPSWの人たちには講義の無い日や講義終了後ずいぶん経ってから会うことが多い。彼らの「具合の悪そうな人」ランキングでは確固他たる地位を築いているようだ。

自覚はしていないが本当は「具合が悪い」のかもしれない。中学1年生の中間テストの準備ははかどった。33-4年経ったいまでも覚えている。これ以降、勉強や仕事ははかどった覚えはない。中学1年生の初夏のあの日を標準とすれば、現在など瀕死の状況に等しい。

そういえば思い当たることがある。あとになって「具合が悪かった」と思うときの多くが、トイレを我慢していることが多い。それも無意識に我慢しているようで、用を足すと驚くほど体調がよくなる。そのとき「ああ、具合が悪かったようだ」と気づく。弁当を持参したにもかかわらず、食べずに持ち帰ったこともある。忙しくてではない。食べることを忘れていたのだ。午後になって空腹のせいで具合が悪かった。(あとになって、空腹のせいだと気付いた)水分を取ることも忘れることもある。しかも、糖尿病の治療で利尿効果のあるくすりを飲んでいるため、水分は身体の都合以上に放出される。

私を見て「体調は大丈夫か」と感じた皆さん。優しい言葉をありがとう。しかし、その時、私に必要なものは優しい言葉ではなく、トイレや食物や飲み物かもしれません。その様に関知していただければ、望外の幸せで

す。

松村奈奈子

今年の寒波は強かったー。寒波を楽しまなきゃ！と夫婦で蒜山高原に出かけて雪山の美しさに感動。ついでに、キッズパークで子ども用雪ソリを楽しみました。生まれて初めての雪ソリ、大人でもとっても楽しかったです。来年はスノーシューハイキングしたいなー。

で、そんな寒波のまたある日、京都の北部で仕事をしていると雪が深々と降ってきました。車でできていたので「ああ雪おろしに時間かかっちゃうなー」と凹んでると、窓から笑い声が。おー、窓の外では、なんと若い男性職員が数人で私の車の雪かきをしてくれているではないですか。「ありがとー！！」と思わず窓から叫んじゃいました。フロントガラスにお湯までかけてくれて。いいなあ、この感じ。おかげで早く帰宅できました。



そんなお礼を兼ねて、先週は居酒屋でその若い職員達と宴会。嘱託仕事で月に2回しか行かないので、あんまり交流が無かったのですが、初めてじっくり話せて面白かったです。

今年の寒波のおかげで、私はわくわく体験をさせてもらいました。

奥野景子

次年度からあんまマッサージ指圧師の専門学校に通うことになった。それに伴い今の職場も離れることになる。大学院に入学した時は、一か月だけ理学療法士という仕事から離れたが、今回はもう少し長い間、理学療法士から離れることになりそう。そこにどんな変化が生まれるのかは、今の私にはわからない。でも、自分で何かやってみたいという思いから決めた進学でもある。だから、よくわからないなりに進んでみようと思う。

柳 たかを

【初心を貫く】

平昌冬季オリンピック中に書いております。自分が最初に決意した(初心)を現実の困難にひるみ方向転換してしまうと「最初にあったモチベーション」が弱まる。すると決めている結果にならないと思っている。

「しぶとく諦めない」、繰り返しになりますが、困難にひるんで別案にシフトしようとしても、別のプランでも行き詰まりやすい・

結果を欲しがるとあせりが出てくる。そこで少々完成形が変わるのは承知で、とにかく初心貫徹だけを念頭にゴールすること。わからなくなったら時間をおき、でも初心のモチベーションは維持し続ける。

初心も時間とともにだんだん手垢がついて飽きもくるのですが肅々と作業し続ける。

そうやって誕生したもの、、、振り返ってディテールを思い起こせば、どんな結果・成果であっても本人は納得できる気がする。メダルを取る事がかなわなくても、そこまで努力した時間は神様がくださったもの、作品制作や人生にも言えるように思います。

(追伸)

本誌掲載の「東成区の昭和」ストーリー四コマ連載を中断し、5回短期連載「ホイラン」が前号で終わりました。

そこでまた「東成区の昭和」を再開致します。未完ですが自分史を脚色しHPで書き継いだものです。

齋藤 清二

総合心理学部も完成まであと2年となり、私個人にとっても学部専門ゼミを担当するという全く新しい経験をさせてもらえることになり、これまでの経験と乏しい知恵を総動員することで、若い11名の学生さん達の人生のターニングポイントを一緒に通り返けることの手助けができればと思っている。常に若い諸君と一緒に何かをしている環境は、私にとって新しいエネルギーをもらっている恵まれた状況であると実感している。

この3月に、北大路書房から『総合臨床心理学原論—サイエンスとアートの融合のために—』という書籍を発行する。この本は、2017年度に立命館大学総合心理学部の約240名に対して行った「心理学概論」の講義内容を教科書としてまとめたものである。私

が大学で教えることのできる年数ももはや限られた回数になりつつあるが、5年後、10年後を見据えた、心理専門職教育のあるべき姿に一石を投じることができれば幸せと思っている。

石田佳子

最近、中国語(Mandarin)を学び始めました。「英語が通じる」と言われるマレーシアですが、それは都会やホテルなど一部の地域に限られたことで、田舎やローカルの市場などではマレー語か中国語(地域によって異なる)の必要を痛感するからです。マレー語の方はすでに夫が習得しつつあるため「中国語は私が！」と一念発起した訳ですが、始めてみるとその難しさに悶絶し、初級のテキストと格闘しています。

私もその一人ですが、日本人には外国語の習得に苦手意識を持つ人が少なくないと思います。一方、マレーシア人(特に少数派の中華系やインド系)は、子どもの頃から多言語に触れて育つこともあり、(英語かマレー語を含む)2〜3ヶ国語を話せる人が多く、(広東語、福建語など中国語の方言を含めると)5〜6種類の言語が話せる人も珍しくありません。また、周辺諸国からマレーシアに移住に来ている人たちは、生きるために必死で言葉を身につけますから、その習得の速さに驚かされます。英語だけでも敬遠しがちな日本人には「みんな語学の天才か？」と思えるほどなのです。

ところが、彼らとLINEなどで文章を交換すると、自在に話し聴き取れるように見える人でも、滅茶苦茶な英語を書いて来ることがあり、読み書き力は意外と弱いことに気づかされます。しかし、彼らは「6〜7割できればOKら〜！」と明るく受け止める人たちですから、失敗を恐れず堂々と喋るし、喋れば(会話は)上手くなる、という好循環に恵まれるのです。これは「9〜10割できなければ『できる』と思えない」ため、ルールに囚われて喋ることに尻込みし、苦手意識を持ち易い日本人とは、対照的ではないでしょうか？

例えてみれば、必要に迫られているから“ずた袋”でも何でも使う人と、「バッグを持つなら一流品でなくちゃ駄目」と信じているから何も持たずに過ごす人との違いと言うか。。。

語学の習得方法に限らず、自分も含めて日本人(あるいは日本の社会)には、高い要求水準を課すことによって自らを縛ったり、追い込んだりしがちな傾向があるのではないかと感じている昨今であります。

しすてむ♪きよたけ

小さい規模から事業をスタート。そののち、社会の流れで大きくなり、時にはフォーカスされていく現場は、少なくないだろう。

とくに、2020年に向けて、動いていなかった場面が動き出すことは必然であろう。そして、どこかがクリアに社会の中に位置付けられていく。世間知らずの僕が言うのもなんだが、多かれ少なかれそうやって社会と人は、動いてきたのだと思うし、今もそうなのは？と思う。全て否定して要る訳ではないが、そんな時にも動けること、僕が少しでも、何かできる手立てはないだろうか？と思う。

ただ、ほそぼそと始め、今に至る現場の中には、昔からのメンバーだから、仲良くしてるから、遅くまで頑張っている人だから、病気のなのに頑張っているから…そんな評価が暗黙の了解のようにある現場もある。僕には、この評価基準が不思議に見える。

これに直面するのは、依頼を受け、入ったところから、気づくことが多い。扱いたく、そろそろ自分ができることの見定めも要る時期にきたようだ。ただ、入った以上、僕にできることは何だろう？とも思う。

変わらないことの良さもあるが、変わることと変わらないこと、もしくは、変えたくないことの意味も見えることもあると思う。

これまで記載したことは、二極化されてい



るようだが、両方とも興味深い。

この背景には、コミュニケーションやコミュニティは、1人では成り立たないということ

がある。意見を言うだけの一方発信が、僕には全く面白くないからだろう。

さてさて、今回のエピソード。いつも以上に好き勝手書いた。いや、描いた。だ。人と人は、物理的にすれ違っていることの方が多

い。そこを前提に、すれ違っているのだけど、ちよつと残ったことを描いていく。

雑踏を覗いていると思ってもらえるといいかも。

小林茂

去年、臨床宗教師養成研修に参加する機会があり、在宅の終末期医療の現場を研修として観させていただきました。その時にケアワーカーとして働いていた介護職の仕事垣間見て介護の知識も知っておいたら良いな、と思わされたことがあります。そんなこともあり、過去の実務経験を寄せ集め、実務者研修の学びとスクーリングに通い、1月末に介護福祉士の試験を受けてきました。結果は、3月末になるようですが、合格していればありがたいです。

しかし、この試験。試験開催場所が、札幌会場ではなく、釧路会場であったのは災難でした。私が住む日高圏域であれば釧路方面に行く電車も路線バスも高速道路もないのです。一度、千歳市か札幌市まで出て、そこから釧路に向かうというルートになります。札幌市であれば1泊2日の日程が、2泊3日で試験を受けに行くこととなります。試験会場の割り振りは東京の本部で地図から直線距離で判断し、割り振ったのではないかと思います。北海道の方に聞けばわかることですが、地方の実情が考慮されない世界は、こんなところにもあったかと思わされる体験でした。

<温泉紹介>

☆くしろ湿原パーク「憩の家 かや沼」

場所:北海道川上郡標茶町茅沼

TEL:015-487-2121

営業時間:午前10:00~午後22:00

(入浴受付21:30まで)

料金:日帰り入浴もできます。

大人450円 小学生200円

釧路湿原国立公園で唯一の天然温泉です。恵まれた泉源環境から天然温泉掛け流しです。無色透明の湯は、飲用も可。5つある湯船は、やや高め温度設定です。長湯に浸かるのはのぼせてしまい難しいかもしれません。

泉質:ナトリウム - 塩化物温泉

湧き出し口温度:47.2℃

湧出量:毎分450ℓ

その他:露天風呂、打たせ湯など。

水野スウ

毎年3月、イラク開戦の日の前後に、市民が金沢の街なかを歩いて平和の意思表示をする「ピースウォーク金沢」は、今年で18年目を迎えます。私も実行委員の一人で、1月2月の北陸の大雪にもめげず何度も集まっては話し合いを重ねている真っ最中。



3月21日のウォークの前に、「全国コッカイオンドク！コンテスト」というこれまでにないイベントパフォーマンスを、金沢の商業施設の一角で開催することになりました。「コッカイオンドク！」というのは国会のやりとりをそのまま音読するアクションのこと。ピースウォークメンバーの書き起こしをきっかけに全国へ広がり、市民が国会を身近に感じられるユニークな活動として、日隅一雄情報流通促進賞の特別賞を受賞しました。それもあってか、今年のピースウォークの取り組みは例年以上にマスコミの注目を集めています。

ゲスト審査員には、「報道特集」キャスターの金平茂紀さん、県内審査員として弁護士さん、舞台プロデューサーでもある茶房店主さん、そしてハンナ・アーレントの研究者で金沢大学教授のお三方。

コンテスト、と銘打ってはあれけれど順位を競うことが目的ではありません。政治家のモノマネの比べっこでも、茶化したり、批判するためのオンドクでもありません。国会で実際に交わされている言葉と自分がどう向きあうのか、その言葉に魂はあるか、何を隠そうとしているか、何を明らかにしようとしているか、そもそも何のための国会か。オンドクする側も見る側も、このパフォーマンスを通してこれまで違うアプローチで国会を擬似体験してもらおうという、市民アクションの試みです。

デモ、抗議、批判、集会、といったものから共感は生まれにくいことを、私自身痛いほど感じています。その意味でも、このコッカイオンドクというフラットなパフォーマンスが、市民活動のあらたな可能性を広げてくれる

かもしれないことをひそかに期待しています。

今年のピースウォークのテーマは「アンテナたてよう、わたしの明日のことだもの」です。私自身、自分の中に独りよがりでないアンテナを立てて、今の社会をキャッチしたい、知らず知らずまわりに流されていないか、どんな伝え方でならともに生きる仲間をふやせるのか、それを更新できる私でありたいと思っていますので、今年のピースウォークのテーマは、私のテーマでもあるのです。

というわけで、興味おありの方はぜひ春の金沢へ！

ピースウォーク金沢2018は、3月21日(水・祝)10:15~12:30 全国コッカイオンドク！コンテスト@金沢香林坊アトリオのアトリオステージ 13:00 いしかわ四高記念公園集合 13:40 ピースウォーク スタート (詳しくは「ピースウォーク金沢2018」を検索してみてくださいね)

中島弘美

大阪梅田にあるCONカウンセリングオフィス中島です。家族支援のカウンセリングをする一方で、カウンセリング、社会福祉援助技術、心理学等の授業を担当しています。

2018年度は、14年ぶりに人間コミュニケーション論の講義を受け持つことになり、授業の準備をしています。できるだけ体験をして身につけてもらいたいと考えているため、ひとコマ90分授業のなかに、個人ワークやグループワークを取り入れ、毎回学んだ内容をシートに記入し提出をします。

最近よく考えていることは、どうしたら、学生さんたちが主体的に学ぶことができるかの工夫です。授業内容の素材そのものだけでなく、どのように伝えるのがよいのかの試行錯誤はちょっと楽しくもあります。それはカウンセリングにおける対人支援とよく似ているからです。主人公である学生さんやクライアントさんが、どのような状況のなかで、やる気や行動を起こすことができるのか、気付きを促進したり、モチベーションをアップしたりするには、何があればよいのか、思いめぐらします。

もうすぐ春。学生さんとの新しい出会いが待っています。

藤信子

先週末に東京に行く用件があったので、時間を作り東京国立近代美術館に、熊谷守一の没後40周年展を見に行きました。美術展はとて面白かったが、今回は別の話。この美術館に行くためには、地下鉄東西線の竹橋駅でおりののだけれど、多分この駅で降りるのは初めてだった。見終えて半蔵門駅に近いこれまた初めてのホテルに向かうのに、東西線で九段下まで行き、そこで半蔵門線に乗り換えて半蔵門駅についた。後でホテルでもらったウォーキングマップを見ると、東京国立近代美術館から泊まったホテルまでは歩いて1キロメートル程度だったことがわかった。翌朝その日の「3.11大震災を語るグループ」の会場のある錦糸町までは、半蔵門線に乗って20分程度で行けるところだったが、錦糸町に行く途中「水天宮」「清澄白河」など、なじみの無い地名を聞いて、どんな所だろうと思ったけれど、地下鉄では外は見えない。前日に歩ける距離を地下鉄に乗ったことを思い出して、私は東京の街については、いつも行く用事のある場所—スポット—数カ所しか知らないのだと思った。京都ではバスに乗るので、通りの木々の様子などで季節を感じる。そして道を覚えたのもバスに乗ったから覚えられたというのは大きい。地下鉄は便利だけれど、地上の町の様子が見えないため、いつまでもどんな街なのかわかりにくい。この巨大な街で地下鉄が無いと移動は時間がかかるし、不便だろうと思うけれど、便利さのために、街を見て楽しむことを、奪われているようなそんな気がした。

千葉晃央

アイルトン・セナ、ミハエル・シューマッハ、アラン・プロスト、ネルソン・ピケ、ジャン・アレジ…フォーミュラ1(F-1)を若い時によく観た。彼らはヒーローだった。日本勢がどこまで食い込めるのか?!も楽しみの一つだった。ドライバーとして、鈴木亜久里、中島悟、そしてホンダ、トヨタも参戦し、盛り上げた。速さを競うF-1の一方、ル・マン24時間耐久レースをはじめとする耐久レースもよく観ていた。カラーリング、車体のかっこよさからカルソニック・ニッサンを応援したりした。ザウバー・メルセデスのメカ感の強いデザインと爆音も忘れられない。これらモータースポ

一つは、バブルの崩壊、環境意識の高まりのなかで急速にメインストリームから外れていったように感じるのは個人の感想かもしれない。その存在意義を問われたのは事実であろう。それでも残った存在意義の一つは、極限の状況下でも、安全に走行する「機械」を作るという技術革新を生み出すこと。その成果として、市販車両に技術が一般化される。それがモータースポーツが社会に寄与している一つの側面である。極限状態でも安全なもの、一般の走行では走行における余裕を担保するものである。

私の現場は現在忙しい。作業処理量を念頭に置きながら、様々なところで努力をしている。もちろん働く人に過剰な負担をかけず、残業にならずという制限の中で、である。車のレースにも、エンジンの排気量、ピットインの回数などの制限がある。同様に労働現場にも制限がある。その中で、職員の動きの見直し、休憩時間の確保の仕方、ロスタイムの軽減等で試みる。これらのベースは安全操作である。それが大前提。踏まえての挑戦である。作業をしていると、職場が生き物や細胞のように感じることもある。不測の事態が起こると隣のチームの一部が自動的にフォローに回る、一人の職員が利用者さんの様子を確認に行けば、その持ち場には他の職員が入る。作業に余裕があるときは、そこまで極めなくても回る。しかし、それが当たり前になるとこれら(安全下での)極限を求めた技術は失われてしまう。しかし、何度も言うが大前提は安全である。その上での無駄のない動きである。

鈴木亜久里は「電気系統…」とよくリタイアのコメントを話していた。マシンであればメカニクが原因を突き止めて、原因を排除して、ピットからコースに戻る。職場はメカニクが治すのではない。自分自身が能動的によりよく機能することを試みるのである。その時には、犯人捜しの原因追及型はある程度にとどめ、そこから先は円環的因果律に基づくことが役に立つ。解決志向で明日からどうするかを話す。そこでは状況理解の正しさよりも、改善を志向するモチベーション、意欲の高まりが何よりも求められる。そこはモータースポーツとは絶対的に異なることだ。明日から、またコースに復帰。トラブルによるペースカーも入らず、ベストを尽くすのみである。

中村正

ネパールに出かける。薬物依存症のリハビリの取り組みをすすめるダルクのみなさんについていく。ダルクはグループミーティングを主に多様な回復プログラムを組んでいる。なかでも三重ダルクがアジア諸国にダルクを輸出している。アノマスグループは欧米的なやり方なのでアジアではまた独自の展開をしたいと考えてのことである。

最近では長編映画『アノマス・ピープル(無名の人々)―回復者の顔と声―』(アメリカで2000年頃から始まった新しい回復擁護運動: New Recovery Advocacy Movementを紹介したドキュメンタリー)も作成され、日本でもパレードをするなど、「匿名の人びと」ではなく「無名の人々」として名乗りで、回復にむけたカミングアウトとアウト(行動化)をしている。そのダルクの人々が回復プログラムの支援だけではなく資金援助を受けて就労支援のためのカフェレストランをカトマンズにつくり、回復を自前のできるようにする支援を開始して3年目となる。



製作: 依存症からの回復研究
発行: (株)セレンティ・プログラム
〒200-0017 神奈川県横浜市金沢区西曲 4-9-22
電話/ファックス: 045-349-3003
Eメール: serenityprogram@japan.onai.ne.jp / info@kai-fukukun.org
注: 新しい回復擁護運動(New Recovery Advocacy Movement)は回復者のプログラムではなく、様々な回復のプログラムを提供しているグループや施設などにつながりやすくするための、思い換えれば回復しやすい社会を作るための運動です。この運動にアノマスグループのメンバーが参加するとは、アノマスの伝統に基づいて自分が属するグループは明らかです。回復した一歩として参加します。
日本ではカバリーパレード回復の祭典が回復擁護運動を盛り上げています。
<http://recoveryparade-japan.com/>

日本の薬物依存症者たちがアジア型の回復のための取り組みをする国際支援とはなんと気持ちがいい。その人たちについていくこととした。6泊できるので、休みをつつてヒマラヤ遊覧飛行もしてはどうかとすすめられた。

牛若孝治

「クレーム」をプラス思考で受け止める

昨年11月、マッサージ師として再就職した私に、早くもある患者からクレームがきた。「マッサージの技術がなくて、真心がこもっていない、私の言うことに、いちいち反論する」等々、それはそれは辛らつな内容だった。技術面はさておき、実際私は彼の言

ったことにそんなに反論していなかったのだが、彼にしてみれば、担当したばかりの私のほとんどすべての言動が気に入らなかったのだろう。

私は当初、彼のこのようなクレームに大ショックを受けたものの、こんな風に思った。(確かに開腹手術を受けて大分経つとはいえ、腹筋に力が入ってないからマッサージの技術がおぼつかなかったのか。確かに私の言動は、どこか尊大で、そのことが彼に「真心がこもってない」と思わせてしまったのか。いずれにせよ、「ただのクレーム」として片付けるべきではない。この「クレーム」を期に、マッサージ師として新たに身を立て直さなければ)。

その後、私は彼の前に大奮闘した。私の大奮闘振りを知ってか、彼はだんだん怒らなくなり、静かに私に話しかけてくるようになった。

大方、マッサージ師にクレームをつけたら、その後去っていく患者が多い。しかし、彼は私の下を去っていかなかった。クレームをプラス思考で受け止めることを、私は彼から教わった。私は、彼に心から感謝している。

袴田洋子

テレビでオリンピックの試合を見たりして、生活リズムが整いません。いえ、もともと整っていないんですけど。最近見た映画、「スリー・ビルボード」が最高でした。もう一度観たいと思うくらい。多分、観に行くとします。あと、早く「ゲット・アウト」が観たいです。そうそう、認知症の親父様、2月19日に老人保健施設に入所しました。要介護3。母は、「初めての一人暮らし」を気に入っているようです。昭和20年生まれの子は、18歳で結婚して、22歳で私を生んで、73歳で、初めての一人暮らし。元気にいろんなサークルに参加しています。

団遊

春になりました。花粉症です。一昨年のこと、東北のスキー場に春スキーに行くと、そこは一面の杉林。雪が舞い、花粉が舞う、という最悪の状況で、山の植生をきちんと調べずに行ったことを後悔したことを思い出します。

ウズベキスタンに行ったときも同じことがありました。旧ソ連、シルクロードの国、とい

うことで期待に胸を膨らませながら飛行機を降りたら、そこは一面の杉の植樹だらけ。瞬間、すぐにでも帰りたくなりました。国の植生をきちんと調べず行ったことを後悔したことを思い出します。

そういえば、一年でこの時期だけ、配っているティッシュを受け取ります。何の広告かは関係なく、この時期はあればあるほどありがたい、と身体が覚えています。ティッシュ配りをするお兄さんも、無駄なことは何一つ言わず「ティッシュをどうぞ」と差し出します。彼らにとっては、業務効率が上がり「早く来い来い、花粉症」でしょう。商品は、必要としている人がいるところに、あれこれウンチクを言わずにさっと差し出す。くしゃみをしながら、商売の基本を改めて見つめ直します。

大石仁美

今の若者は、高価な服は買わないらしい。バッグやアクセサリもレンタル。その時その場を楽しめばいいので、物を持つことに意味を感じない人が増えているという。考えてみればとても合理的。

でも?? 普段着までレンタルとは。一か月分まとめてレンタルしてクリーニングしないで返却できるというのが受けているらしい。

身に着ける衣類は、自分の身を守るだけでなく、自己表現であり、コミュニケーションの道具だと思っているので、日常的にレンタルで済ますということには違和感が伴う。一生に一度だけの、晴れの日のレンタルとはわけが違う。

私には擦り切れていても、お気に入りで捨てられない服があり、大切な人との思い出が詰まった服もある。どんな時にこの服を買ったのか、誰と一緒に買ったのか、だれに作ってもらったのか、その時どんな気持ちだったのか、眺めているといろいろなことが思い出されて、胸が熱くなる。

そんなことを思う人間はもはや旧人類に分類されるのだろうか。

今風の新人類は、風のように、軽く薄く透明で、人とも物とも決して深く繋がらない。短い流行の先端に片足を入れて、すぐ脱ぎ捨てる自由を楽しんでいるらしい。

業者もうまく若者を取り込んで、売れ残って処分するよりも得策なのだろう。

この、人と物との関係は、人間関係の希

薄さを象徴しているように思えて仕方がない。

村本邦子

4月から大阪茨木キャンパスがベースとなるので、3月には、研究室と京都の家の引越しを抱えている。すぐ〜く気が重い。しかし、人間、切羽詰まっていざとなったら案外何でもできるものだ。それを信じて、この機会に、大阪の自宅も心機一転きれいに片付けようとイメージし始めた。何しろ都心部の小さな空間に多すぎる物をため込んでいるので、一番の課題は捨てることだ。「あったらいいものはいろいろあるが、なくてはならないものはわずかししい」とは、かつてのクライアントさんの名言。残された人生になくてはならないものかどうかが、身辺整理と違って動き出すでしょう。

國友万裕

僕はFacebookのハードユーザーで、毎日更新しています。日によっては何度も更新する日もあります。Facebookで繋がっている友達は、この原稿を書いている時点で265人なのですが、いいね！を入れてくれる人は大体多い時でも1記事につき10数人。20人を超えることは1年に1、2度です。いいね！を入れる人の顔ぶれも大体は決まっています。他の人たちの記事を見ている、マメに更新している人の顔ぶれはほとんど決まっています、少数です。大部分の人はアカウントを持っているだけで更新していない。人の記事を見ているだけの人もいるでしょうし、全く見ていない人もいます。



しかし、Facebookでつながっておくと便利な時があります。先日、久々に専門学校で教えていた男の子にメッセージをしました。彼とはもうかれこれ10年ぐらい会っていません。彼は専門学校の後、大学に編入して、その頃までは学校で顔を見ていたのですが、卒業して、旅行会社に勤務し始めてから、勤務先が台湾になってしまい、いつか会いた

いなあと思いつつも、お互い忙しさに流されてきました。ところが、先日の台湾の地震があったので、彼の安否が心配でしたし、徐々にメッセージを入れました。するとすぐに返事が来ました。彼の住んでいる地域は大丈夫とのことで、また京都に来た時は連絡しますというメッセージでした。

もう彼はおそらく30歳過ぎているはずですが。早いなあー。それだけ長いこと会っていない人に連絡をとることができるのはFacebookのおかげです。とはいうものの、今の若い人はFacebookよりもインスタグラムやツイッターを活用していますし、ラインは使うけど、SNSはやっていない人も多くて、Facebookの次に新しいSNSがそろそろ出てくるのかなあとも考えています。

僕のFacebookの友達で、家族以外で、一番長い付き合いなのは男性学の伊藤公雄さん。伊藤さんとは20代の終わりの頃に知り合いました。それ以前の知り合いの人とは繋がりはありません。これを言うと冷たいみたいですが、それ以前の人とはもう一生繋がらないほうがいいかなあと思っています。特別親しい人もいなかったですし、友達リクエストも来ませんから。20代の頃までの僕は本当の自分ではなかった。まだ引きこもりから抜け出すきっかけもつかめず、もがいていた頃です。29歳でやっと非常勤の仕事が見つかり、自立への一步を踏み出した時に伊藤さんと知り合いました。そこから僕の本当の人生です。それまでのことは断捨離して、これからの出会いに期待したいと思っています。

北村真也

学びの森 <http://manabinomori.co.jp>

亀岡市で、もう一つの学び場「学びの森フリースクール」を運営する。またそこで得られた新しい学びの知見をもとに、「ハイスクール」、「ユーススクール」、「放課後等デイサービス」、「探究スクール」を展開中。

古川秀明

講演会&ライブをしながら日本中を旅できるのは本当に嬉しくて幸せです。今回は日本とトルコの友情にあらためて感動しました。日本の子ども達にもっとこのエルトゥールル号のお話を知ってもらいたいと思います。世界中がこんなつながり方をしたら素晴らしい

なあ。

シンガーソングカウンセラー

西川友理

京都西山短期大学で保育士養成をしています。その他にもいくつかの福祉系専門職養成校に出没中。

フェイスブックには日々、たくさんのイベント情報が流れてきます。サロン、自主勉強会、〇〇をしてみようの会…。私が知らなかっただけかもしれませんが、こんなにあるのか!と驚くほど。週末だけではなく、平日の夜などにも、毎日たくさん開催されています。あまりにもたくさんありすぎて、とても全部には参加できません。

またその開催場所も、昔ながらの公民館や貸会議室だけではなく、住みびらき、コワーキングスペース、シェアオフィス等、様々な所で開催されます。公とも私とも違う、コミュニティスペースのような場所がここ 10 年くらいで増えて来たなあと思います。

こういうイベントに参加すると、会社や学校など、ある組織に属していても、その組織人であるという認識よりも、私個人が今たまたまこの組織に属しているだけで、私自身のミッションや興味対象はこれこれです、とでもいうような、自由度の高いアイデンティティを持った人に沢山出会うなあと思います。面白い方が多いです。

何かに所属しておけば安心、という生き方が出来ない社会になってきたからか、自分を説明する言葉や考えの手触りを確認する場所を求めているのかもしれない、と思います。インターネットや SNS など、時間的空間的制約を超えて情報拡散できるようになり、ますます個々人のミッションや興味だけでつながることが出来る環境が整いました。

私もそんな会を 2 つ主催しており、また参加者として定期的に通う場もいくつかあります。このような会に参加すればするほどますます、公と私ってそんな明確に分かれるものじゃないでしょ、と強く感じるようになってきています。その傾向は今後さらに広がっていくのだろうなと思います。(この短信、10 年後に読んだらどんな印象を持つんでしょうね…なんとなく、自分で興味があります。)

と、ここまでが、2 月 24 日に入稿した分で、翌日 2 月 25 日、編集長こと団士郎先生の退職記念講演を聴講。

見事に本文にダダ被りのテーマ(継続すること)で「しまった!」と思い、慌ててこの文章を書いています(笑)。でも、講演を聴講したことで、「続けることを目標とする事」ではなく「変わりたくないこととわかる事」に対して苦さがあるのだなと自らを再確認できました。むしろ「続かんようなことは始めないほうがいい」というお言葉。成程。昔『ムーミン谷の夏祭り』で読んだ、スナフキンの「大切なのは、自分のしたい事を自分で知ってるってことだよ」と言うセリフを思い出しました。

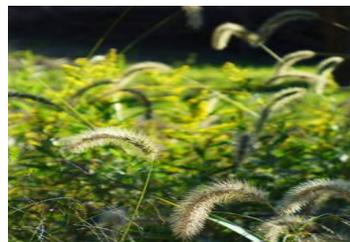
中村周平

前回の連載をお休みしてしまい申し訳ありませんでした。原因となった首の痛みは、現在も少し残っておりますが、日常生活に支障が出ることはなくなりました。

問題となった PC への入力方法は、視線入力や音声入力を何度か試してみました。視線入力は長時間にわたる使用が目に対する大きな負担になるため、少し断念しています。音声入力に関しては、誤変換が多く、正式な文章には使えませんが、下書きには有効であることがわかりました。しかし、最終的には人的な直接入力をお願いするのが一番ありがたいと、それに頼っているのが現状です。もし、良い入力方法があればどなたか教えて頂ければ幸いです。

坂口伊都

我が家に「猫」が来た。それもきょうだい 2 匹。我が家の犬との相性が悪くて、犬の方は追いかけてまわすし、猫は犬を威嚇するして本当に一緒にやっつけられるのかと最初は不安でした。今でも、犬と猫は仲がいいわけではなく、同居人のようにそれぞれで生活を送っています。



猫は、とにかく上へ上へと登る。そして、台の上の物を落として壊す。呼んでも来ない。どこにいるかわからない。犬が喜びりんごには見向きもしないのに弁当に入れた鰯の照り焼きを食べてしまう。そして、ねこじゃら

して簡単に釣れる。犬とはまったく別の生物でした。物が壊され、大事な手紙を破かれたりしていますが、まったく腹が立ちません。とにかくかわいい。かわいいから、許せてしまう。すごい奴らです。

「かわいい」と思えるって、すごく大きな事だなと感じています。人間を警戒しながらも危害を加えずに餌をくれるとわかると、真っ直ぐに甘えてきます。この真っ直ぐさや無邪気さを出すことを難しくしてしまうのが人間なのでしょう。時には、正々堂々と主張して甘える動物を見習ってもいいのかも知れませんね(笑)

河岸由里子(臨床心理士)

北海道 かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

公認心理師の国家資格化に伴い、現任者講習があった。平日一日 4 枠(1 枠 1.5 時間)の 5 日連続か、土日一日 5 枠の 4 日という選択があり、平日 5 日は休めないで、土日コースを選ぶことにした。ところが北海道ではそのコースがない。東京か大阪だが、日程的に合うのが大阪しかなかった。急いで申込、何とかそのコースに入れた。二週にわたって大阪に金土や金土日と泊まって講習を受けた。3 枠目くらいからきつくなってきて、4 枠目は頭がぼーっとし、5 枠目はヨレヨレ。これを繰り返すこと 4 日。最終日の最終講義が終わった時には、放心状態に近かった。ということは、何も頭に残っていないのかもしれない。一緒にの列に座っていた仲間は、皆東京や愛知など大阪以外の場所からきていた。一緒に仲間がいたから乗り切れたこともある。講習を終わって会場から出たら、目の前で何やらパンフレットを配っている人がいる。何かと思ったら「国試対策講習」と書いてある。まだ一度も行われていない国家資格試験に対して、どうやって対策を考えようというのか。「何もわからない」という不安に対し、あれやこれやと商売上手なことだ。

それはともかく、5 枠の授業を受けて、ここ 2 年程行っている院の集中講義を 5 枠の三日にしていることについて、ちょっと考え直した方が良かったかと反省した。

岡崎正明

今日は羽生くんが 2 大会連続の金メダルを取った。特にまとまったことが思いつかないので、1 日で思ったアレコレを書いてみ

る。

朝は録画して「セサミストリート×パリバラ」を観る。セサミがマイノリティに力を入れているなんて知らなかった。発達障害の小5の女の子が「みんなと仲良くしたい」と言い、クラスの子が彼女の特性について想像し、声をかけたりしている。そうだよなあ。やっぱりいろいろ気が合わないやつとか、傷ついたり傷つけたりもあるかもだけど、基本『人は善なるもの』として向き合いたいよなあーと、職場の特性のある人思ったりしながら反省するとともに、ちょっとウルっとくる。最近涙もろくていかん。特に子どもモノは破壊カバツゲン。

お昼はお好み焼きを食い過ぎた。おかげで例のごとお腹が不安定。しかし期限が1月に切れて早く使い切りたかった胃腸薬が飲めた。ちょうど良かったかも。なんだそりゃ。

その後羽生くんの演技を見て、「この人こそリアルアイドルなんじゃ？」と思う。作られた歌や踊りの世界でヒーロー化するジャニーズや韓流は、いわばフィクション。だけど彼は現実に、逆境から最高の結果を出して世界一。ドラマかっ。しかもマンガみたいな決めポーズが嫌味なくサマになる。男なのになんだかタカラジェンヌみたいな艶っぽさもある。なんじゃコイツ。本当に3次元？



夕食はオリンピックを意識したわけではないがキムチ鍋。やっぱ冬は鍋。相方が「ピョンヤンだっけ？ピョンチャンだっけ？」。相変わらず自分の興味のない情報は、まったく拾わない人。ピョンヤンだといろいろややこしいことが起きそうだなあ…などと妄想しつつ、シメの麺をすすった。また食べ過ぎた。

見野 大介

生まれて七カ月になる息子もハイハイと掴まり立ちを習得し、機動力がUPしたことで油断できなくなってきました。育児のサポートをしやすいのが在宅勤務の特権やなあ、日々実感します。見事なまでの親バカモード

になりつつありますが、仕事せな話にならないので頑張って気持ちを切り替えて制作しまくってます。

最近、器の制作工程の中で焼成方法を変えました。粘土も釉薬も従来通りでも、焼成方法に変化を与えるだけで以前より深みのある色が出るようになりました。まだまだ改善の余地はあるなあ、陶芸の無限性を実感すると共に、10月の高島屋京都店での個展までに一定レベルのクオリティまでもっていかなあかん焦りが募る、今日この頃。

浦田雅夫

年度末、落ち着かない日々を過ごしています。さようならとこんにちはが慌ただしく、ころころがついていきません。拙著は学校臨床の新展開としてスクールソーシャルワーカーや教育相談のことなどを書いてきました。が一旦終わり、社会的養護の新展開と称して、描かせていただきます。引き続き、よろしく願いいたします。

団士郎

今回の短信は編集長である私の個人的経験からの一言にさせてもらおう。だったら、編集後記に書けば良いようなものだが、長い蓄積経験からの思いなので、ここに書くことにする。

*

これだけの大所帯になると、いろいろな事情で休載になる方も増えるのはやむを得ない。連載は自由・任意だから基本的に了解である。

その上で、私が40年以上継続して漫画展や冊子発行をしてきた漫画グループ「ぼむ」での経験のことを書いておきたい。

ミニコミブームというのが1970年代に起こって、様々なグループ、集団がミニコミ誌を出していた。漫画にもそういう流れがあって、いくつか創刊された。しかし今、現役で残っている集団は多分「ぼむ」だけである。思い出話と共に酒を飲む昔馴染みの集まりはあるだろうが、基本的に創作者グループは皆消えたと思う。その理由を私は分っていると考える。

それは制作「自由」参加であることが、「怠け・だらしなさ」と連動したからだ。

マンガを描くと決めたら原稿締切りは落とさない。締切りは守る。自費出版だからと言っ

て、原稿が集まった時に発行するなんてルーズさを容認しない。忙しかったなんて言い訳は、暇になる日などやってこないことを直視していないことになる。これを貫いたことが「ぼむ」継続に繋がった。

この教訓は他のミニコミ媒体でも実証済みだ。二年前まで私は、「家族心理学会」のニューズレター編集長として10年間、年二回の発行をしてきた。8ページくらいのもので受け継ぎ、32ページ程の定期刊行物に育てて続け、次期編集長が立候補してくれるのを待ってバトンタッチした。

どれも「継続執筆」というのがひとつのポイントだ。書くこと決めたら、次回も必ず締切りは来るのだから、思い立ったとき直ぐ書き始める。新聞記事ではないのだから、締切り間際になって新しいニュースが登場することも少ないだろう。

自分に甘いと、緊急事態による休載が起きやすい。これは人生のルールと同じだ。準備不足のところ、緊急事態は起きやすい。

このマガジンが8年間、年4回の発行日にほぼきちんと発行されていることの意味は新しく参加する人達にも知ってもらいたいと思う。そして世界をこういう風に維持していく人々の存在や責任感のありかたを学んでもらわねばならない。

芸術家・作家など特別な才能のある人々の気まぐれや甘えを、自分にならさせてはならない。先ず、職人の律儀さにならう、これが私の信条である。

大谷多加志

このマガジンが出る頃には確定しているはずなのですが、昨年の12月に博士論文を提出し、3年間の大学院生活が区切りを迎える予定になっています。終わってみればあっという間で、理解できたことよりもはるかに多く、知らなかったことや理解できなかったことがあることに気づき、途方に暮れる思いです。「学びてしかる後に足らざるを知る」という言葉通りの実感です。

一方で、論文を提出したからといって、とくに生活上に変化はありません。相変わらずデータ収集の作業もありますし、書きかけの論文もありますし、仕事も変わりません。論文が終わったらちょっとは楽になるかな？という淡い願望は打ち砕かれたことになりましたが、論文を書くための手段としてあれこれ

苦勞していたわけではなく、その時々でやりたいこと、やるべきことをこなしてきたに過ぎなかったと、いうことなのでしょう。そのように考えられたことに、少しだけ自分の成長を感じ、嬉しく思っています。

馬渡徳子

昨年二月に重ねて、「今回休稿」させて戴きます。確か去年は、過勞から三度目のギックリ腰で、「ギックリさん」と笑い飛ばすことにしていましたっけ。



今年も、年末から私事が落ち着かず、職場の同僚や職能団体の役員、自主的な研究会等々、全て仲間の皆さんに多大なる公的業務の制限と配慮を戴き、プライベートにシフトできる時間をつくることができ、一日一日を前に進めることができています。本当に、そのような組織や仲間の中に、自分が居る事に、心より感謝しております。

そんな私を支えた、もうひとつの力となった、言霊を三つ!

①生きてるだけで、大体オッケー!

by マギーしろう

②ゆるすと うまれる

楽になる きもち

by「通販生活」掲載

③心

by 袴田洋子

①は、亡父の友人であるご住職が2011年に、お寺の前にある黒板に日替わりで記載されていたある日の言葉。父は、この言葉に強いインスピレーションを感じたのか、その日から黒板の前に、お花を生けるようになっていました。

②は、2015年に、義父を交通事故で亡くした報道を観た私の担当患者さんが、見つけて書き写して、そっとプレゼントして下さった言葉。「ゆるす」の対象は、「赦す」が自分自身を。もうひとつが、「時間という薬」で事故のお相手のことを指すのかなと。

その方は、第二次世界大戦の時に、シベリアに抑留され、その後帰国された方で、県内

にご生存されておられる数名のお一人だそうです。毎年、社会福祉士や介護支援専門員の実習生や、非常勤講師をさせていただいている金沢大学大学院の留学生を担当すると、その方を家庭訪問し、学生さんに向けた「語り」をお願いしています。

③は、対人援助学マガジンの連載執筆者のお一人である袴田洋子さんを訪ねて東京に伺ったときに、袴田さんのご家族が、全国でもいち早く独立型居宅介護支援事業所を開業された彼女にプレゼントされた素敵な色紙。鶴に、なぞらえた誠に素敵な書画。

人生いろいろですが、皆様、次号まで、ごきげんよう!!

竹中尚文

私は元気です。今回は、マガジンの原稿を書きかけたところへ『七日参りのお話』の再校が送られて来た。以前にマガジンで連載させてもらったものが、本にしてもらえる。本にしてもらうのだから、急いで校正をして、時間がなくなった。木村さんとの往復書簡の原稿に加えて、今回から「盆踊り漫遊」を始めたい。時間の流れと競争をしている。

川崎二三彦

お知らせ

2年間に渡って連載してきた「SV・羅針盤のない航海」は、前号をもって第一部を終了しました。

この後、第二部を始める予定ですが、準備に時間が必要ですので、読者の皆さまは今しばらくお待ちください。準備期間中は、それまで連載していた「映画の中の子どもたち」を再開できればと考えていますが、あくまでも現時点の予定です。

それはさておき、近況を報告します。以前にも少し報告したかと思いますが、昨年1年間をかけて某メーリングリストで連載したのが「研修講師舞台裏」。私が講師を引き受けた研修について、講師の立場で感想などを書き付けたものですが、引き受けた研修等が種々のものを合わせて年間50本を超えたので、連載するのも結構な負担感がありましたが、それだけにいろいろ考えることもありました。

翻って今は、私の職場である子どもの虹情報研修センターでのweb版「ミニ講座」の取

録に、またしても膨大な時間を吸い取られています。上映時間で10分から15分程度に小分けしたものを5本作成し、全体版で1時間程度となる予定のミニ講座ですが、10数分の準備にまる1日かかる。それを映像担当者と打ち合わせしては、再び修正する。おかげで他のことが後回しになり、日々四苦八苦している現状です。ちなみに、今回のテーマは「考えてみよう子どもの権利」。



実は、この原稿を執筆している時点は収録の数日前でして、今日はこれから、もう一度点検と修正に費やさなければなりません。完成のあかつきには、まあ一度ご覧になってください。虹センターの援助機関向けページにアップする予定ですが、援助機関向けページに入るにはパスワードが必要ですので申し添えておきます。

なお、一昨年の夏に、同じ「ミニ講座」欄にアップした動画版「手に取るように家族がわかるジェノグラム・描き方と活用のコツ」は、おかげさまで好評を得、その附属資料として添付していたPDF版について、ジェノグラムの記号一覧を新たに加えた上で、実は本日、虹センターの研修資料として印刷し、ミニパンフとして製本化しました。今後は、当センターの研修に参加される方に配布することとしていますが、ネットで「ミニ講座」にアクセスしていただければ、引き続きご自身でプリントすることもできますので、今後ともご利用いただければ幸いです。(2018/03/01 記)

荒木晃子

2018年1月、愛犬あんり(ミニチュア・シュナウザー♀)が14年余りの犬生を閉じた。従妹の家で生まれ、生後4か月足らずで我が家の一員になった頃は、1kgにも満たない元気な子犬だった。先住犬(こちらもミニチュア・シュナウザー)を亡くし、空席のあった私

の心にあたたかな灯が再び灯ったことを覚えていてる。

両親が暮らす奈良の実家へ帰るたび、島根県のクリニック(筆者がカウンセラーを務める生殖医療施設)への出張業務にも、あんりを車の後部座席に載せ、可能な限り何処へでも一緒に連れて行った。



2007年父を看取り、ひとり暮らしが始まると、母は一人娘に「あんりを連れて行かないで」とせがんだ。きっと、父がいない家でのひとり暮らしは寂しく心細かったのだろう。精神科と生殖医療施設の2か所でカウンセリング業務をしながら院生でもあった娘には、母の寂さを埋める時間はそう多くはなかった。以降、あんりは、ひとり暮らしの母を支える大切な存在となった。

数年後、加齢とともに進行性の脳性疾患を持つ母の症状が重症化し、やむなく闘病生活が始まった。母からは、「あんりを頼むね」と託されていた。お見舞いに行くときは必ずあんりを連れて行き、病院の入り口まで母を車椅子に載せ、あんりとの面会を果たした。その時の母の笑顔は今も忘れない。

2013年母を看取り、それから5年後の今年1月、あんりを見送った。心臓マッサージを受けているあんりのもとへ駆けつけ、その様子をしばらく見ていた私は、「もう充分ですよ。やめてください。あんりはもう十分に頑張ったのですから。」と獣医に告げた。それは丁度5年前、最期を迎えようとした母のベッドサイドで繰り広げられた様子と、まったく同じ光景だった。私はあの時と同じ気持ちで、同じ言葉を発していたことに、最近になって気が付いた。

私にとって、あんりは最後の家族であり、母の忘れ形見でもあった。あんりの最期ま

で見守ることは、母が娘に遺した“たった一つの願い”をきくことだったのだ。

お母さん。娘はお母さんとの約束を守りましたよ。きっと今頃は、天国であまりと一緒に楽しく暮らしているのでしょうね。今度は娘からのお願いです。「あんりをよろしくお願います」。合掌

鶴谷主一

今回は、長年感じてきたピアノ演奏技術のことについて書かせて頂いた。

子ども・子育て新制度が始まって、今後幼児教育・保育を含めた無償化などがすすむと懸念されるのが、幼児教育、保育のサービス業化だ。我が子を教育してもらうためにその園、その先生に託す関係だったのが、預け預けられる関係になってくること。

保育者のスキルが落ちてくれば、尚更それは進むに違いない。

だから、先生はピアノぐらいサラッと弾けてほしいのだ。

木村晃子

2月下旬、初めて仙台空港に入った。7年前の震災の影響を受けた跡はみられない。

時間があったので、311メモリアル交流館にも立ち寄ることができた。当時の様子が語り継がれている。その場で目にすると、これまでとは少し違ったものが心の深いところからこみ上げてきた。

震災の時に、いち早く救助にあたった消防隊員、救急隊員の記録があった。すさまじい状況の中で、大きな役割を果たしていたように見えた、それぞれの人たちは、できる限りを尽くしても尚無念さを持ち続けていたことを知った。人の力では如何ともしがたい状況であっても、その無念さを無駄にしないように次の時代に伝えるべく動きをしている。積み重ねるといことは、土台を忘れないことかもしれない。

記憶する。学ぶ。人の知恵を活かせるように生きていく。人間としてのミッションだと感じた。

三嶋 あゆみ

今回のマンガは、電通過労死事件が大きく報道された2016年に描いたものです。

同じ広告業で働くまだ1年目の女性が、会社に殺されたことはとてもショックでした。

法律を変えて人の命を奪ってまで儲けた財界と政府は、彼女の死を軽く受け止めているのだと思います。亡くなった人たちや遺族の痛みとともに、みんなで止めたい。

乾 明紀

前回休載となった周旋家日記ですが、なんとか復活することができました。

さて、今回のテーマは町内会。当初は違うテーマで書き始めていましたが、学生と町内会の活性化に向けた取り組みを、4月からも継続実施するのでこの内容にしました。学生にも読ませようと思っています。

これまでは「キャリア形成を考える」という中テーマで12回ほど書いてきましたが、今回は「シティズンシップを考える」という中テーマにしてみました。次回以降はこの路線で続けていければなど“今”は思っています。